

～adidas CUP 2009 大会運営体験レポート～

スポーツを支えるということ

TSC コーチ（富山大学4年）

近藤 寛朗

7月25日(土)から7月28日(火)の3日間、日本クラブユースサッカー連盟のスタッフとして、福島県Jヴィレッジで、adidas CUP 2009 日本クラブユースサッカー選手権 U-18 大会の運営に参加しました。主な仕事内容は、会場での試合運営でした。具体的には、会場設営の指示、キックオフ・選手交代時のメンバーチェック、結果報告などを行いました。この期間の大会の運営は、(財)日本サッカー協会・日本クラブユースサッカー連盟・(財)福島県サッカー協会・東北クラブユースサッカー連盟・Jヴィレッジ・筑波大蹴球部学生・福島県内高校生・大日本印刷・博報堂・オオウチ工芸（サイン作製）などで協力し合い行われました。

私は、普段、大学生の大会の運営には関わっています。しかし、全国レベルの大会ということもあり、いつもとは違う緊張感を感じました。また、24チームが集まる大きな大会なので、よりきめの細かい、心遣いのある運営が必要とされました。運営というものは、非常に地味な作業です。しかし、それがしっかりと協力して成されればとてもスムーズに試合が進みます。逆に、少しの油断が大きなミスにつながるということも感じました。

こういったことは、実際のプレーによく似ているなと思いました。リスペクトマインドを持って、協力し合うこと・注意深く油断しないことなどは、プレーにも共通しています。こういった能力を、スポーツを通して育むことができれば、運営という状況に置き換えたときに、また社会に出たときに適応することができるのではないかと思います。

全国大会のような大会では、短い期間ではありますが、子どもたちは自分たちの力で共同生活を行います。礼儀や協調性など、そのような状況で育まれる能力も多いと思います。そして、そのような学びの機会を、スポーツを支える人たちによって提供されています。

今回の運営を通して、スポーツを支えるということを改めて考えさせられました。「スポーツから何かを得た人は、スポーツを通して、その経験や学びを子どもたちや周りの人に与えなければならない」という話を聞いたことがあります。スポーツを支える側に立つということは、まさにそれを成すことだと思います。私も、スポーツから多くのことを学んでいます。今回の経験を忘れず、観戦支援などスポーツを支える事業の多い、今後のTSCの活動に生かしていきたいです。そして、多くの出会い・気付きを与えてくれたスポーツに感謝します。